# メールボックス 市民の声

## 普天間基地から発生する夜間ヘリ訓練の騒音

私たち家族は宜野湾市に住んで約十五年になりますが、普天間基地から発生する夜間ヘリ訓練の騒音やそれによって起こる振動があまりにもひどく、一時も気が休まりません。昨日の夜八時ごろ南の空に美しい流れ星を見ましたが、ヘリ部品の墜落なのかと恐怖を感じました。ヘリ訓練のために自分の感覚がそれほどおかしくなってしまっている事に憤りを感じます。特に、低周波の振動(?)が建具を揺らし、その音が夜遅くまでずっと続いているのでテレビの音、電話、子どもの勉強の集中などの妨げになっています。夜間ヘリ訓練の説明もなく、同じ事をくりかえす今の状況はおかしいのではないでしょうか。米軍や国にどれだけ意見しても伝わらないようでしたら、この状況(低周波の振動)を測定し、はっきりとした数値化をする事によって、国や米軍に提示して訴えて欲しいと思います。沖縄国際大学への墜落事故から丸三年です。また同じような事態が起こらないか、最近の米軍の動向を見て強く不安に感じます。今日も逆旋回で家の真上を飛んでいます。

**回答**

ご投稿ありがとうございます。

基地政策部基地渉外課より回答いたします。

今年五月からタリスマンセーバーという豪州との合同訓練に参加していたヘリ部隊約二十機が七月十八日に普天間飛行場に帰還以降、住宅地上空での旋回飛行訓練が激化し、七月二十五日は上大謝名地域で朝三時三十分～夜中十時四十六分まで一日に騒音発生回数が百六十九回も記録され、三年前のヘリ墜落事故のような大惨事が再び、起きかねない危険な状況にあります。

特に普天間飛行場騒音規制措置で必要最小限に限定される夜間十時以降の住宅地上空での旋回飛行に対しては、悲鳴にも似た苦情電話が市民から多数寄せられその都度、米軍に抗議しております。更にF18戦闘機の飛来やタッチアンドゴー訓練の実施など益々、危険な運用と騒音被害が増加している状況にあります。

市民の生命・財産を守ることは、行政の最大の責務であることからこのような状況をこれ以上放置することはできません。

本市は、これまで普天間飛行場の騒音被害の実態と墜落の危険性を日米両政府に訴え、一日も早い危険性除去策を講じるよう要求し、早期閉鎖・全面返還の実現に取り組んで来ました。引き続き市民の皆さまの声を両政府に届け、早期返還に取り組んでまいります。

また、ご指摘のあります低周波振動や健康被害については、普天間飛行場周辺地域での実態調査やデータ把握について政府に働きかけると共に本市としましても大変、重要な視点だと考えており対応策を検討していきたいと考えております。

ご意見・ご要望、お待ちしています。庁舎1階の「ご意見箱」か、市のホームページ「ご意見・ご要望」コーナーをご利用ください。

# 茶(ちゃー)ぐわーゆんたく 41

## お月見と共に…

旧暦八月十五日(新暦九月二十五日)は、十五夜の日にあたり、その日は県内各地でも「十五夜」の行事が行われ、豊作を祝います。

宜野湾では、十五夜に大謝名と普天間で獅子舞が演じられ、野嵩では「ウチチウマチー(お月お祭り)」も行われます。ウチチウマチーは、十五夜の日の夕方から拝所の前で祈願を行い、太鼓を手にして歌い踊ります。なお、子年と午年にあたる十五夜のウチチウマチーは祈願のみとなり、祈願後にマールアシビが行われます。

かつては、数年廻(まわ)りの村芝居(マールアシビ)が野嵩と普天間では十五夜に、新城では旧暦十月に行われていました。現在でもアシビの年になると野嵩は十五夜に、新城は旧暦十月、普天間は郷友会総会の時にアシビが行われます。

野嵩のアシビは、舞踊以外に歌劇や組踊も演じられ、かつては男性のみの参加から、戦後は女性も参加できるようになりました。歌劇や組踊のなれない方言の台詞、演技者の確保など、苦労しつつも、地域の先輩から演技者は指導を受け、アシビは若い世代へと受け継がれてきました。演技に関わる人々の思いが舞台から伝わることでしょう。満月に行われるマールアシビから、秋の訪れが感じられるのではないでしょうか。

マールアシビの開始前に野嵩の集落の大通りを出演者が道ジュネーをし、気分を盛り上げてくれます。1990(平成2)年

☆「宜野湾市史」への問合せ
教育委員会文化課
☎八九三ー四四三